

チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 127 2024年2月16日発行



写真上段

左・中央：クリスマスプレゼントを受け取ったウクライナの子どもたち（本文 p. 4）

右：子ども基金から届いたカレンダーを手にするウクライナの子ども（本文 p. 3）

写真下段

左：ペラルーシの子どもたちのクリスマス会（本文 p. 5）

右：薬と紙おむつを受け取ったウクライナの親子（本文 p. 3）

*** 目次 ***

p.2 ウクライナ「内分泌研究所」

p.3 2024年支援計画

p.4~5 子どもたちへのクリスマスプレゼント

p.6~7 ウクライナから国外へ避難した人たち

p.8 ウクライナからの便り

p.9 里親のページ

p.10 2023年度決算報告書

p.11 募金・救援状況

p.12 事務局から

ウクライナ 内分泌研究所

キエフ（キーウ）市内にあるウクライナ内分泌研究所では、ウクライナ各地に暮らす甲状腺の手術を受けた患者の診療を行っています。子ども基金では、研究所に対して甲状腺ホルモン剤など医薬品や医療機器の支援を長年続けています。

これまで長年にわたり、そして我が国にとって大変困難な状況の中、チェルノブイリ子ども基金のみなさまからのご支援に心からお礼を申し上げます。

甲状腺ホルモン剤「エウチロクス」のご支援ありがとうございます。これは、甲状腺がんの手術を受けた患者が、生涯、毎日飲み続けなければならない、必要不可欠な薬です。購入した3,310箱のうち、9月（2023年）初めまでにすでに163人の患者が561箱受け取っています。

私たちの協力関係は大変貴重なものであり、今後もこのような関係が続きますことを願っています。

内分泌研究所 所長 N.D. トロンコ
2023年10月13日

チェルノブイリ子ども基金のみなさま

私たちにとってのこの困難な時期にご支援をいただき心よりお礼を申し上げます。

甲状腺がんの手術を受けた患者に必要なホルモン剤「エウチロクス」を購入するための経済的支援に感謝いたします。彼らはこの薬を毎日、それぞれに決められた用量服用しなければなりません。

ご支援いただいた資金により、さまざまな用量（25～125 μg ）のエウチロクスを購入しました。それぞれに必要な投与量を選択できるため、患者にとってはより便利です。

これまでに569人の患者が、各用量のエウチロクス1,687箱を受け取りました。

このようなご支援は大変貴重なもので、今後も私たちの関係が実りあるものとなることを願っています。

放射線診断・治療部門長
S・グレヴァートイ
2024年2月5日

日本の友人のみなさんへ

新年のお祝いを申し上げます。みなさんに平和な空、ご健康、喜びがありますことをお祈りします。みなさんのご支援とお氣遣いに、そして私たちの信頼できるよき友人でいてくださることに感謝します。

放射線診断・治療部門 スタッフ一同
2023年12月30日

追伸：放射線診断・治療部門では通常通り、甲状腺患者たちの検査と治療を続けています。



ウラディーミルさん（左）
1973年生まれ
2005年に手術を受けた。エウチロクス150 μg を服用している。

オリガさん（右）
1976年生まれ
2023年に手術を受けた。エウチロクス100 μg を服用している。



★ 2024 年の支援計画 ★

みなさまの募金のおかげで 2023 年も救援活動を行うことができました。ご支援に心よりお礼を申し上げます。

募金額の減少を受け、残念ながら 2024 年のベラルーシ「ナデジダ」での「チェルノブイリ被害者家族の保養」を見送ることにしました。2023 年度決算は 12 頁をご覧ください。その他は、以下の通り 2023 年度と同様の支援を予定しています。今後ともご支援をいただけますようよろしくお願いいたします。

<ベラルーシ>

- 子ども健康回復センター「ナデジダ（希望）」「腫瘍病の子どものための保養」
- 慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」この団体を通じて里子の支援、会員の子どもたちの医薬品代、スタッフ給料と事務所維持費の一部。

<ウクライナ>

- 慈善団体「チェルノブイリの子どもの生存」この団体を通じて里子の支援。スタッフ給料と事務所維持費の一部。
- 「汚染地域に住む病気の子どものための保養」：ウクライナ西部の保養施設で実施。
- 「内分泌代謝研究所」甲状腺手術後の患者への医薬品代。
- ウクライナ緊急支援 戦争により厳しい状況にあるチェルノブイリ被害者のための生活費、医薬品代、医療費。

～ * 2023 年の支援から追加報告 * ～

ナロジチ公立初期医療ヘルスセンター ウクライナ・ジトーミル州ナロジチ市

前号 No. 126（2023 年 10 月発行）で報告の通り、昨年は紙おむつ、粉ミルク、医薬品を支援しました。その後、2023 年 10 月末に、さらに薬を受け取った子どもたちの写真が送られてきました。



ヴェロニカ（5 歳）
副鼻腔炎の治療中



ディーマ（17 歳）
喘息の治療中



2024 チェルノブイリ救援カレンダー

ウクライナ、ベラルーシ両国の慈善団体、病院、学校へ送りました。そのうち、ウクライナ・ジトーミル州の学校「オヴルチ・リツェイ」から、受取の連絡と写真が届きました。カレンダーの写真に登場する、2023 年の保養に参加した子どもたちです。

ウクライナとベラルーシの子どもたちへクリスマスプレゼント

昨年12月、ウクライナ・ベラルーシ両国の団体を通じて、子ども基金が購入費を支援して用意されたクリスマスプレゼントが、チェルノブイリ被災地域に暮らす子どもたちに贈られました。



ウクライナ

【オヴルチ子ども芸術アカデミー】

ジトーミル州オヴルチ
NGO「子どもたちの生存」ザクレフスキーさん
からの報告です。

「2023年12月26日にクリスマス会が開かれ、子どもたちはクリモヴィチ校長からプレゼントのお菓子セットとジュースを受け取りました。また、優秀な生徒には表彰状が渡されました。ニコライ校長はオヴルチの町の近くの林にある松の木を選び、クリスマスの飾りつけをしました。本当はさらに森の中に入り、美しい形の木を選びたかったのですが、今森に入るのはとても危険です。ウクライナとベラルーシの国境地帯はみな、ベラルーシ側からの新たな敵の侵入を防ぐために、ウクライナ兵士によって地雷が埋められているからです。右下写真の後ろで、子どもたちが持っている紙にはウクライナ語で「ありがとう！」と書いています。この言葉通り、子どもたちは日本の子ども基金のみなさんにとっても感謝しています。



1月から授業が始まっていますが、キーウ（キエフ）と同じように、オヴルチでも常に空襲警報のために、子どもたちは多くの時間を地下の避難場所で過ごしています。1月23日は、授業時間のうち2時間を地下室で過ごしました。夕方、親たちに付き添われて帰宅しました。この日はウクライナ全土で3回、計6時間にわたり空襲警報が発令されました。しかし翌24日は静かでした。昨年のクリスマス会に病気のため参加できなかった子どもたちにプレゼントが渡されました。」（2024年1月26日）



「オヴルチ子ども芸術アカデミーの教師、職員、そしてここに通っている子どもの親たちより、子どもたちにクリスマスプレゼントを贈ってくださったことに感謝いたします。戦争の中でも、子どもたちの幸せそうな笑顔を見られるのは、支援して下さるみなさんのおかげです。来年（2024年）の夏、もし戦争の状況が許せば、私たちの生徒が再びカルパチヤの「チョコレート」での保養ができるようご支援をいただければと願っています。

2023年12月30日
校長 クリモヴィチ



「2024年チェルノブイリ救援カレンダー」を手にする子どもたち。オヴルチ子ども芸術アカデミーにて。（2024年2月12日）

ベラルーシ

【NGO 困難の中の子どもたちへ希望を】

ゴメリ市小児がんなど病気の子どものためのクリスマス会が開かれました。NGO「困難の中の子どもたちへ希望を」代表ポホモワさんからの報告です。

「2023年12月25日、会員の子どもたちを招待してクリスマス会を行いました。親や学生たちが企画し、子どもたちはクリスマスのお菓子セットと果物を受け取りました。ジュースとピザをみんなで食べ、ゲームやダンス、

歌を楽しみました。夏の保養プロジェクトと一緒に過ごした仲間たちと再会し、楽しいひと時を過ごしました。

体調を崩していたり、会場から遠い場所に住んでいた子どもたちには、食料品（缶詰、食用油、ソーセージ、果物）とクリスマスのお菓子セットをそれぞれの家に届けました。

子ども基金が作った2024年救援カレンダーを見て、みなさんが子どもたちのためにどれほど多くのことをしてくれていることかと、改めて感じます。子ども保養施設「ナデジダ」で過ごしている子どもたちの笑顔、みんな何と幸せそうなのでしょう。「困難の中の子どもたちへ希望を」の代表として、子ども基金のみなさん、日本の募金者のみなさんに心からお礼を申し上げます。病気の子どもをもつ親たちも、日本の皆さんのご支援にとっても感謝しています。」



写真上：自宅でプレゼントを受け取った子ども
写真下：クリスマス会に参加した子ども

ウクライナから国外へ避難している人たち



インナ：キエフ（キーウ）からドイツに

2023年10月23日

私が避難して暮らしている町に、ウクライナ人避難者たちで構成されている合唱団があります。1年前にできた合唱団で、私もそこで歌っています（写真左）。

12月27日

私と娘のマリアンナは、ウクライナ兵士への寄付金を集めるための合唱コンサートに参加しました（写真右）。*30人ほどのウクライナの人たちが「クリスマスキャロル」歌っているビデオも送られてきました。

2024年1月5日

新年にキエフにとても帰りたいのですが、それは容易なことではありません。まず、出国のために娘には新たな書類が必要で、それを作るにはウクライナか、ドイツ国内ならベルリンに行かなければなりません。ベルリンはここからとても遠いです。そうでなくても、家族全員で帰国する費用も私たちにとっては高額ですので、頻繁に帰ることはできません。クリスマス・新年の時期は多くのウクライナ人が国に帰っています。そのため国境での待ち時間がとても長く、車の中で2~3泊ということもあるようです。ポーランドでも車が数キロの行列で渋滞を起こしているそうです。できるなら私たちも国に帰りたいですが、それは今の時期ではありません。娘のマリアンナは、夏にはどうしてもウクライナに帰りたいがっています。学校の9年生の卒業式にどう

しても参加したいと言います。さらに、そのまま一人でもウクライナに残りたいと言います。15歳の娘を一人で住まわせるのはとても心配です。私にとってはまだ子どもですが、もう親が何とかしようと思っても、自分で考えて行動するようになっていきます。残念なのは、ドイツに来てから彼女に新しい友だちがいないということです。友だちがいたら、もしかしたらここで一緒に暮らそうと思うかもしれないのに。

数日前にまたキエフにミサイル攻撃がありました。安全なところはどこにもありません。母と妹がキエフにいます。ふたりのことがとても心配です。

1月29日

間もなく甲状腺の定期検査があります。1年前と比べて自分の健康状態がどうなっているのかを知ることになります…。

日本の様子はいかがでしょうか。日本人は今でもチェルノブイリ被害者や、ウクライナの問題に関心を持っているのでしょうか。それともほかの世界の出来事が一番の関心事になっているのでしょうか。私たちは今、ウクライナ戦争2年を迎えるにあたり合唱コンサートの準備をしているところです。それからドイツ語の勉強も続けていて、3月には試験があります。ドイツではよく集会が開かれます。何千人もの人が民主主義のため、ウクライナのため、あるいは移民の権利のためにデモ行進をします。今は鉄道労働者によるストライキが行われていて、電車は動いていません。最近ではほかに農民によるストライキがあり、数百台のトラクターが町中を走行し、交通を遮断しました。ドイツに

は非常に自分の主張をはっきり示す人がいて、労働組合運動も活発だということを知りました。

オクサーナ（ジトーミル出身）：キエフ（キーウ）からイギリスに

2024年1月2日

日本の大きな地震の被害に心を痛めています。みなさんをご無事でしょうか。私は今もイギリスに滞在しています。高齢者施設で働きながら、英語の勉強も続けています。一緒にこちらに避難してきている姉は、クリスマスにジトーミルの両親のところへ一時帰国しました。そこはとてもひどい状況です。毎日のように爆撃を受け、住宅が破壊され、人々の命が失われています。私たちの土地をロシアに奪われたくありません。このような不幸なことが早く終わってほしいです。本当にそうなることを願っています。

ワジム：キエフ（キーウ）からポーランドに

子ども基金はスウェーデンの NGO 「star of hope」と協力して、ウクライナの甲状腺の患者を支援しています。star of hope を通して、2022年4月に続き今年9月も、子どもの頃に甲状腺の手術を受けた人たちに支援金を送りました。それぞれの支援の様子はニュースレター No. 122（2023年6月発行）、No. 126（2023年10月発行）で報告しています。

10月に入ってから、star of hope ウクライナ支援担当、ジャマルさんから次のような連絡がありました。

「私たちが支援しているウクライナの甲状腺の患者の中で、ポーランドへ避難しているワジム（1982年生まれ）が仕事上の事故で負傷しました。木材を切るための機械で、左腕の先を切断してしまったのです。3日前のことです。彼はいま、ひとりでワルシャワの病院にいます。精神的にもとてもショックを受けています。私はなるべく早く彼のもとを訪れたいと思っています。もしできたら、彼の支援に協力してもらえませんか。」

子どもの頃に甲状腺がんの手術を受けたワジムさんは、star of hope を通して、保養プロジェクトの参加など、さまざまな支援を受けてきました。子ども基金は、チェルノブイリ事故の被害者であるワジムさんへの支援を決めました。

11月19日、ジャマルさんはワジムさんを訪れ、子ども基金からの支援金を手渡しました。写真と領収書、ビデオレターの報告が届きました。



「私はチェルノブイリ事故の被害者で、ロシアとの戦争による被害者です。今日、ポーランドの私のもとを訪れた star of hope のジャマルさんより、チェルノブイリ子ども基金からの支援金を受け取りました。ワジム・B」

ビデオレターの中でワジムさんは、「チェルノブイリ子ども基金のご支援にとっても感謝しています。私はこのようなこと（包帯をした左手を上げて）になっているので、とても重要なお支援です。ありがとうございます」と少し笑顔を見せていますが、大きなショックを受けていると思います。そのような中でのジャマルさんの訪問はどれほど心強かったことかと思います。

【その後のワジムさんの様子について】

「ワジムはずいぶんと良くなりました。彼はポーランドにアパートを見つけ、先週からは妻と子どもも一緒です。また彼は新たな仕事を見つけ、彼の妻も2024年1月から働く場所を見つけました。子どもたちも年明けから学校に行き始めます。

ウクライナに残る人たちは、冬ということもあり、また物価の上昇もあり生活も大変で、状況は良いとは言えません。

star of Hope は今、厳しい状況下で支援を必要としている他の国々を重点的に援助するプロジェクトを進めています。それでも star of Hope はウクライナに対しても（チェルノブイリの被害者に限定せず）様々な備品、衣料品、衛生用品、食料品などの援助品をトラックで届けています。

私はチェルノブイリ被害者の友人たちをサポートする方法を模索しています。いろいろと難しい状況ではありますが、何とかできると考えています。

素敵なクリスマスと良いお年をお迎えください。

2023年12月22日

ジャマル」

ウクライナからの便り

NGO「チェルノブイリの子どもたちの生存」
ザクレフスキー代表 キエフ（キーウ）市在住

■11月19日の夜中、キーウ（キエフ）の気温はマイナスに下がりはじめました。キーウへのミサイルやドローンの攻撃については、今のところ防空システムですべて撃退されています。私が住んでいる地区の停電は1回だけでした。近隣の地区では数回停電がありました。ウクライナの他の都市については、状況は悪化しています。秋になって、空襲警報は頻繁になり、その時間も長くなりました。このために人々の精神的な疲労が積み重なっています。このメールを書いている今、窓の外に雪が降り始めました。初雪です。（2023年11月22日）

■2024年は日本もウクライナも悲劇的な出来事で始まりました。1月2日、キーウはさらに激しいミサイル攻撃に見舞われました。12月29日の時と同じ規模でした。子ども基金の関係者の方の中で地震の被害に遭われた方はいませんでしたでしょうか。（2024年1月8日）

■今朝のキーウは大規模なミサイル攻撃で始まりました。私の部屋の窓から閃光が見え、ミサイルが落ちる轟音が聞こえました。建物や車が破壊されました。（1月23日）

子ども基金では、子どもの頃に甲状腺の手術を受けた患者の支援を続けています。次に紹介するニコライさんは15歳で甲状腺がんの手術を受け、その後6年間、里親支援を受けていました。子ども基金の保養プロジェクトにも参加しました。戦争の影響により、生活や医薬品の購入も困難な状況です。2022年9月に続き、2023年10月に緊急支援金を送りました。



左：購入した医薬品。写真中央は血圧計。

右：ニコライと母



ニコライ（39歳）チェルニヒウ（チェルニゴフ）
こちらの状況はあまりよくありません。ロシアとベラルーシの国境に近いこの町では、常に空襲警報、砲撃があり、緊張状態が続き、大きな不安の中で暮らしています。兄は足の指を切断する手術を受けました。皮膚移植が必要とされています。母は甲状腺肥大で、定期検査を受けています。心臓疾患と高血圧もあります。また両股関節と膝関節の問題もあります。家の中を、杖をついてやっと歩いています。自分も甲状腺と高血圧、心臓に問題があります。最近、甲状腺の超音波検査を受けたところ結節が見つかり、穿刺をする必要があると言われました。どのような結果が出るのか、心配です。自分と家族の健康の問題の上に、忌まわしい戦争が続いていて、これは自分にはどうすることもできません。いろいろな不安で夜もよく眠れません。

ご支援のおかげで、新しい血圧計と医薬品を購入することができました。家族全員が血圧の問題を抱えていますが、古い血圧計は正しい数値が出ませんでした。治療のための薬の他に、時々何種類かのビタミン剤も購入しています。甲状腺を摘出した自分のような体は、免疫力が低く、病気にかかりやすいのです。今、流感が広まっています、母も感染しました。

私たち家族は、日本の子ども基金にご寄付をくださったすべてのみなさんにとっても感謝しています。厳しい状況にある中で、このようなご支援がなかったら一体自分たちはどうなっていたかと思えます。みなさんに神のお恵みがありますようお祈りします。自分たちのような悲しみや苦しみが決して起こりませんように。そして何よりもみなさんのご健康をお祈りします。これが一番大切なことです。

（2024年1月30日）



里親のページ

これまで里親支援金は、子ども基金から現地慈善団体の銀行口座へ送金し、各団体からそれぞれの家族へ直接渡していました。しかし2022年2月のウクライナへのロシアの軍事侵攻後、送金が難しくなっています。2023年12月末に行ったウクライナへの送金は無事に完了しそれぞれの家族へ渡されています。しかしベラルーシへの送金がまだ完了しておらず、銀行からの連絡を心配しながら待っています(2024年2月7日時点)。このような事情のため、新たな里親の募集を一時中断しています。募集を再開しましたらご案内します。

* * * * *

<ウクライナの里子>

ヴラディスラフ (14歳) ナロジチ市

脊椎の筋委縮症(中央神経系の病気)。血管神経症。麻痺がある。常に医薬品を服用している。障害児に認定されている。ひと月の医薬品代と紙おむつ代の合計は94ドル。民間クリニックでリハビリ治療を続けている。昨年の春、ジトーミル州立小児病院で、脊髄性筋萎縮症の診断を確定させるための処置を受けた。母親(1970年生まれ)年金生活者。年金額は77ドル。慢性気管支炎。父親ニコライ(1973年生まれ)子どもの世話をしている。甲状腺の病気がある。兄(1995年生まれ)。戦争の初期から動員により軍に徴兵され、現在も従軍中。

<ベラルーシの里子>

アルチョム (11歳) ゴメリ市

2023年6月に脳腫瘍の手術を受けた。2年生になった頃からてんかんの発作を起こすようになり、検査を受けた結果、病気が発見された。現在は6年生。英語、ギターを習っている。絵を描くことが得意。母子家庭で、6歳年下の妹がいる。



妹エセーニヤとアルチョム



アリーナ

～ 里子からの手紙 ～

リーザ (14歳) ゴメリ市

「私は学校の勉強も、音楽学校でも頑張っています。ただ視力が悪くなり、背骨にも問題が起きていますので治療を受けています。1年生の妹も学校の勉強を

頑張っています。ご支援をありがとうございます。Kさんのお幸せとご健康をお祈りします。」

アリーナ (19歳) ホイニキ地区

里親からの支援を受けていたアリーナさんは昨年9月に就職し、本人から「収入を得るようになりましたのでご支援を終了していただいて大丈夫です」との申し出がありました。

「Tさん、長い間のご支援をほんとうにありがとうございました。私は勉強のための本を買ったり、服を買ったり、果物など健康を維持するための食品を買うことができました。今私は保育士の仕事をしています。健康状態も安定しています。チェルノブイリ子ども基金からの支援によるチロキシンの(甲状腺ホルモン剤)などの医薬品を無料でもらっています。あなたご健康をお祈りしています！」

2023年11月 アリーナ

～みなさまからのメッセージ～

★ウクライナ、ベラルーシともに困難な情勢の中、子ども達の保養を実施してくださったことに感謝します。病気に加えて戦争の恐怖、戦場にいる家族についての不安などから一時でも離れ子どもらしく楽しい時間を過ごせたのは良かったです。子どもたちの笑顔が自宅に戻っても続きますようにと祈る思いです。(大阪府 Tさん) ★たださえ苦痛と共にある子どもたちが恐怖の中にいること…。本当にこの国も即刻戦争を止めて終わりにしてほしいと思います。(東京都 Kさん) ★皆様の活動が実りあるものになりますよう、ウクライナ、ベラルーシ、そしてロシアの全ての子どもたちが平穏に過ごせますようにと心から祈ります。(兵庫県 Sさん) ★カレンダーの写真は子どもたちや親の笑顔であふれていて、見ているこちら心も温まってきます。(愛知県 Sさん)

2023年度決算報告書
【2023年1月1日～12月31日】

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越	15,891,482	救援	
募金		医薬品・物品*1	6,536,789
救援一般	7,375,757	保養費	6,672,799
保養費	666,005	団体運営費*2	2,295,803
里子支援	5,707,540	里子支援	4,036,063
ウクライナ緊急支援	1,828,339	緊急支援*3	1,003,264
		ウクライナ緊急支援	1,443,974
		派遣費	0
		送金・為替手数料	40,000
		福島の子どもへの支援	
		未来の福島こども基金	110,223
救援キャンペーン		救援キャンペーン	
賛同金	23,000	2023年4月イベント	12,166
ニューズレター購読料・運営費	450,950	事務運営費	
預貯金利息	73	国際 Tel・Fax	0
		国内 Tel・Fax	89,140
		印刷・コピー費	23,020
		ニュースほか発送費	441,952
		人件費	2,143,591
		交通費	115,815
		事務消耗品費:	151,819
		事務所費	714,424
		広告・宣伝費	
		資料・会議費	3,890
		国内振込手数料	48,170
物販売上		物販仕入	
本・ポストカード・CD・民芸品	68,388	本・ポストカード・CD・民芸品	24,665
カレンダー2023	211,530	カレンダー2024	743,100
カレンダー2024	1,364,260		
小 計	33,587,324	小 計	26,650,667
		次期繰越金	6,936,657
合 計	33,587,324	合 計	33,587,324

*1: ベラルーシの2022年度分の医薬品支援金の一部も含まれます。

*2: ウクライナ、ベラルーシの各団体の事務所家賃、通信費、スタッフ給料など。2団体への2023年度分に加え、ベラルーシの団体の2022年度分を含みます。

※2022年はベラルーシの団体への送金に問題が起きていたため、送金が2023年度にずれ込みました

*3: 里親支援を受けていない、困窮家庭の病気の子どもの支援。

※カレンダーの収入・支出とも次年度にまたがります。
2023年度版のカレンダー収益は669,045円でした。

2023年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2024年1月31日
会計監査

監事 鈴木 由利子
監事 清水 玲子



募金・救援状況



●募金状況 2023年10月～2024年1月 (単位：円)

	10月	11月	12月	2024年1月
募金件数	59	318	213	78
救援寄付金	1,101,635	1,135,766	1,199,047	491,100
保養費	24,500	144,950	85,900	39,900
里子支援	24,360	81,170	102,550	245,370
ウクライナ支援	34,000	136,384	184,000	52,000
ニュース購読費	16,000	68,000	60,000	12,000
合計	1,200,495	1,566,270	1,631,497	840,370

*10月「生活協同組合パルシステム東京」様より878,235円の平和カンパをいただきました。その他、切手のご寄付をいただきました。

♡ 団体名一覧 ♡

(順不同・敬称略)

紙面の都合上個人名は省略させていただきます。ご寄付をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

【10月】生活協同組合パルシステム東京 ヒーリングスペースレイ(株)桜井書店 【11月】ピースライブインこうち 川和保育園父母の会 日本キリスト教団奥中山教会(株)クローバー 一般社団法人シェア基金 川崎市職員労働組合 日本ウクライナ文化交流協会 松山古町教会 C・S 稔台教会 民宿夢民村 【12月】未来の福島こども基金 ひばりが丘グレイス教会 日本キリスト教会横浜桐畑教会 NPO 法人福島こども保養プロジェクト@練馬 恵泉女学園中学・高等学校恵泉デー委員会 ストップブルトニウム神奈川連絡会 中振キリストの教会 バスストップから基地ストップの会の仲間より 川和保育園 恵泉女学園中学・高等学校宗教部 【2024年1月】大阪北教会婦人部 友愛富士見町保育園 (有)ゆう環境デザイン計画

●救援状況 2023年10月～2024年1月 (単位：円)

<ウクライナ>	
◎チェルノブイリの子どもたちの生存	
里子支援 (半年分×5人)	215,685
緊急支援 (半年分×3人)	129,411
運営費：通信費、家賃、スタッフ給料×3人 (2024年1月～12月分)	546,402
◎オヴルチ子ども芸術アカデミー	
子どもたちへのクリスマスプレゼント代	143,790
<ベラルーシ>	
◎困難の中の子どもたちへ希望を	
里子支援 (半年分×38人)	1,659,621
緊急支援 (半年分×17人)	742,462
医薬品 (甲状腺ホルモン剤、カルシウム剤)	2,325,020
運営費：通信費、家賃、スタッフ給料×4人 (2024年1月～12月分)	900,069
子どもたちへのクリスマスプレゼント代	101,590

※子ども基金が支援したものにつきましては、現地団体が購入後、領収書と写真を含めた報告を送っております。



★2024年チェルノブイリ救援カレンダー★ 在庫ございます！

お買い忘れの方、ぜひ3月からお使いください。1部900円・送料別(9部まで200円)。収益は次号ニュースターでご報告します。

★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

(1) 郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2) ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 〇一九店(ゼロイチキョウ店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリコドモキキン

(3) 三菱UFJ銀行 支店名(番号):新宿中央支店(469)

口座番号:普通 1688367 口座名:チェルノブイリ子ども基金



事務局から

■「基金ニュースター」について

ご寄付をくださった方に、使途の報告としてニュースターをお送りしています。ニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

※ニュースターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。

※発送経費を節約し、なるべく多くのお金を子どもたちの保養や医薬品に活用したいと思います。長期間、ご寄付等お振込みのない場合は発送を停止させていただきます。

■ボランティア募集

ニュース発送作業(年3回:2・6・10月):お手伝いいただける方を募集します。次回は、2024年6月中旬の予定です。

場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)

※参加ご希望の方は、前日までにメールかお電話でご連絡ください。電話は平日午前10時～午後5時。留守の場合は伝言をお願いします。

~~~~~

★編集後記★ ロシアのウクライナ侵攻からまもなく2年を迎えます。チェルノブイリ被災地周辺を含め、ウクライナ国内では今も人々が攻撃に晒され、空襲警報に怯える暮らしを続けています。国外へ避難した人々も、慣れない土地で不安な中、故郷に残る親しい人々を日々案じながら過ごしています。基金では、ウクライナとスウェーデンのNGOと協力して、ウクライナのチェルノブイリ被災者への支援を続けています。一方、ベラルーシのチェルノブイリ被災地にも病気に苦しむ子どもたちが大勢いますが、ロシアと同盟関係にあるベラルーシへの送金には、困難が生じています。これまでも同様のことがありましたが、今回も何とか解決方法を見つけて乗り越えていきたいと思いません。支援を必要としている子どもたちに、「国境線」は関

\*\* ご協力いただいているみなさまへ \*\*  
振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

### すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

### 払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で

#### ご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で受領確認の連絡をご希望の方に、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

### 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収証が入り用の際は振込用紙の該当欄に印をつけてください。

係ないのですから。この春、「チェルノブイリ」から38年になります。子ども基金では救援イベントを計画中です。戦争に関連して原発自体についての報道は時折見られますが、事故で被害を受けた人々のことはほとんど触れられなくなっています。歳月が過ぎても私たちは、その人々のことを忘れることなく、これからも地道に出来る支援活動が続けていきたいと思っています。変わらず子ども基金の活動を支えて下さっているすべてのみなさまに心より感謝致します。(事務局)

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(2・6・10月)発行●

住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト <http://ccfj.la.coocan.jp/>

◇事務局ブログ <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。

